



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月5日

上場会社名 株式会社ラウンドワン 上場取引所 東
 コード番号 4680 URL <https://www.round1.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉野 公彦
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 佐々江 慎二 TEL 06-6647-6600
 四半期報告書提出予定日 2021年11月8日 配当支払開始予定日 2021年12月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切り捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	41,345	77.7	△4,674	—	△2,544	—	△2,118	—
2021年3月期第2四半期	23,263	△56.3	△14,311	—	△14,173	—	△11,194	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 △1,733百万円 (—%) 2021年3月期第2四半期 △11,899百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	△23.00	—
2021年3月期第2四半期	△125.66	—

(注) 第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	157,743	46,603	29.4	486.01
2021年3月期	150,576	40,892	27.0	458.60

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 46,390百万円 2021年3月期 40,677百万円

(注) 第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2022年3月期	—	10.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	99,080	62.5	650	—	6,320	—	6,440	—	69.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年3月期2Q	95,452,914株	2021年3月期	95,452,914株
2022年3月期2Q	615株	2021年3月期	6,753,635株
2022年3月期2Q	92,094,245株	2021年3月期2Q	89,084,969株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報)	7
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響を受け、対象区域を拡大し緊急事態宣言等が延長されましたが、ワクチン普及を背景に経済回復の兆しが見られました。

他方、世界経済においても、新型コロナウイルス感染症の再拡大のリスクもあり予断を許さない状況が続いておりますが、ワクチン普及が進むにつれ経済活動の制限が緩和されつつあります。

このような状況の中、当社グループは日本国内において、一部店舗にてクレーンゲームパークへの改装を行い、クレーンゲーム機を大幅に増台いたしました。また、「ROUND 1 LIVE」を利用したリモートイベントや「呪術廻戦」とのコラボレーションキャンペーンを実施いたしました。

米国においては、当第2四半期連結累計期間における個人への経済支援政策等の外的要因の影響を強く受け、売上高は好調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高41,345百万円（前年同四半期比77.7%増）、営業損失4,674百万円（前年同四半期は営業損失14,311百万円）、経常損失2,544百万円（前年同四半期は経常損失14,173百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失2,118百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失11,194百万円）となりました。

第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

なお、当社が運営する屋内型複合レジャー施設は、お盆期間やお正月期間等長期休暇の多い第2四半期及び第4四半期に売上高が増加する傾向があり、四半期毎で経営成績の偏りが生じます。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

（日本）

富士店、金沢店、堺駅前店及び上尾店にてクレーンゲームパークへの改装を行い、クレーンゲーム機を大幅に増台いたしました。また、「ROUND 1 LIVE」を利用したリモートイベントや「呪術廻戦」とのコラボレーションキャンペーンを実施いたしました。なお、緊急事態宣言等の延長に伴う政府や自治体からの要請に従い、カラオケ施設の休業及び営業時間の短縮等を実施いたしました。

以上の結果、ボウリングは前年同四半期比10.9%増、アミューズメントは前年同25.9%増、カラオケは前年同23.3%減、スポッチャは前年同61.5%増となりました。

（米国）

当第2四半期連結累計期間における個人への経済支援政策等の外的要因の影響を強く受けたほか、アミューズメント機種の積極的な導入、昨今の経済状況を勘案しアミューズメント利用料金の見直しを行いました。

以上の結果、ボウリングは前年同四半期比696.8%増、アミューズメントは前年同627.6%増、カラオケは前年同738.1%増となりました。

（その他）

その他の事業セグメントにおいては、日本・米国以外の地域に出店準備を進めております。

(2) 財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7,167百万円増加の157,743百万円となりました。この要因は、現金及び預金が6,582百万円増加、未収入金が1,144百万円減少、未収消費税等が641百万円減少したこと等による流動資産の増加4,907百万円と、使用権資産（純額）が2,758百万円増加、建設仮勘定が874百万円減少、アミューズメント機器（純額）が670百万円増加したこと等による固定資産の増加2,260百万円によるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,456百万円増加の111,140百万円となりました。この要因は、その他流動負債が1,228百万円増加、1年内償還予定の社債が412百万円減少したこと等による流動負債の増加613百万円、リース債務が3,304百万円増加、長期借入金が3,187百万円減少、長期預り金が487百万円増加したこと等による固定負債の増加843百万円によるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5,710百万円増加の46,603百万円となりました。この要因は、自己株式が5,341百万円減少、親会社株主に帰属する四半期純損失2,118百万円の計上により利益剰余金が3,073百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は29.4%（前連結会計年度末は27.0%）となりました。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきまして、2021年5月12日に公表いたしました連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、2021年11月5日公表の「第2四半期業績予想と実績との差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,851	51,434
売掛金	810	527
商品	378	363
貯蔵品	2,439	2,702
その他	5,538	3,899
流動資産合計	54,019	58,927
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	84,439	86,391
減価償却累計額	△44,351	△45,827
建物及び構築物(純額)	40,088	40,563
土地	5,736	5,736
リース資産	28,355	28,605
減価償却累計額	△13,657	△14,035
リース資産(純額)	14,697	14,570
使用権資産	2,015	4,979
減価償却累計額	△135	△340
使用権資産(純額)	1,880	4,639
その他	41,268	43,061
減価償却累計額	△24,414	△26,555
その他(純額)	16,853	16,506
有形固定資産合計	79,257	82,015
無形固定資産	799	767
投資その他の資産		
繰延税金資産	7,490	7,134
差入保証金	8,749	8,659
その他	259	240
投資その他の資産合計	16,499	16,033
固定資産合計	96,556	98,816
資産合計	150,576	157,743

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	254	97
短期借入金	700	700
1年内償還予定の社債	1,192	780
1年内返済予定の長期借入金	6,461	6,298
リース債務	7,427	7,505
未払法人税等	13	327
その他	8,208	9,161
流動負債合計	24,258	24,871
固定負債		
社債	1,314	1,142
長期借入金	57,565	54,377
リース債務	9,506	12,810
資産除去債務	6,730	6,755
その他	10,309	11,181
固定負債合計	85,425	86,268
負債合計	109,683	111,140
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,021	25,021
資本剰余金	22,638	25,697
利益剰余金	△2,155	△5,228
自己株式	△5,342	△1
株主資本合計	40,161	45,489
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	△138	△138
為替換算調整勘定	654	1,039
その他の包括利益累計額合計	515	901
新株予約権	215	212
非支配株主持分	0	0
純資産合計	40,892	46,603
負債純資産合計	150,576	157,743

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	23,263	41,345
売上原価	36,036	44,262
売上総損失(△)	△12,773	△2,917
販売費及び一般管理費	1,538	1,756
営業損失(△)	△14,311	△4,674
営業外収益		
受取利息及び配当金	6	7
補助金収入	462	2,812
その他	143	217
営業外収益合計	611	3,037
営業外費用		
支払利息	339	459
持分法による投資損失	32	8
株式交付費	—	338
その他	101	101
営業外費用合計	473	907
経常損失(△)	△14,173	△2,544
特別利益		
違約金収入	—	907
新株予約権戻入益	—	2
特別利益合計	—	909
特別損失		
固定資産除却損	18	33
減損損失	180	—
特別損失合計	199	33
税金等調整前四半期純損失(△)	△14,372	△1,667
法人税、住民税及び事業税	121	45
法人税等調整額	△3,299	405
法人税等合計	△3,178	451
四半期純損失(△)	△11,194	△2,118
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,194	△2,118

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△11,194	△2,118
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△705	385
その他の包括利益合計	△705	385
四半期包括利益	△11,899	△1,733
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△11,899	△1,733
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年7月14日開催の取締役会決議に基づき、海外市場における募集による自己株式の処分を行い、2021年7月29日付で払込が完了しました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が3,059百万円増加、自己株式が5,342百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末において、資本剰余金が25,697百万円、自己株式が1百万円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより当社グループは、ラウンドワンクラブ会員の入会金等について、従来は対価の受領時に収益を認識しておりましたが、一定期間にわたって履行義務を充足し、期間の経過に応じて充足した履行義務に配分された額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響額は軽微であります。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	四半期連結 財務諸表計上 金額(注) 2
	日本	米国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,253	2,009	23,263	—	23,263
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	21,253	2,009	23,263	—	23,263
セグメント損失(△)	△8,941	△4,996	△13,937	△235	△14,173

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、米国(Round One Entertainment Inc.及びその連結子会社2社)を除く海外現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常損失(△)と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	四半期連結 財務諸表計上 金額(注) 2
	日本	米国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	25,923	15,328	41,252	93	41,345
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	25,923	15,328	41,252	93	41,345
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△3,281	1,418	△1,863	△681	△2,544

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、米国(Round One Entertainment Inc.及びその連結子会社2社)を除く海外現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常損失(△)と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

これによる各報告セグメントにおける当第2四半期連結累計期間の「外部顧客への売上高」への影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

(株式の取得による持分法適用会社化)

当社は、2021年10月22日開催の取締役会において、既存株主から株式会社エスケイジャパンの普通株式の一部を市場外での相対取引により取得し、同社を持分法適用会社とする旨の決議を行いました。

(1) 目的

当社グループの顧客ニーズに応じた魅力的な景品の安定的な供給確保のため。

(2) 株式取得の相手の名前

久保泰子氏及び久保千晶氏

(3) 持分法適用関連会社化する会社の名称、事業規模、事業内容等

名称：株式会社エスケイジャパン

所在地：大阪市中央区南船場一丁目13番27号

代表者：代表取締役社長 八百 博徳

事業規模：資本金 461百万円 (2021年8月31日現在)

事業内容：キャラクターのぬいぐるみ、キーホルダー、家庭雑貨、携帯電話アクセサリグッズ、プライズ商品等の企画・製造・販売

(4) 株式取得の時期

2021年11月25日(予定)

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率等

取得する株式の数：2,688,462株

取得価額：1,252百万円

取得後の持分比率：32.83%

(6) 支払資金の調達及び支払方法

自己資金